貨物取扱量3.7%減

4～9月 中国の景気悪化響く

中部国際空港

中部国際空港（友添雅直社長、愛知県常滑市）の各務正人副社長は18日、2015年4～9月期の国際貨物取扱量が前年同期比3・7%減の8万1千トンとなったことを説明し、「通期目標の17万トンの達成には厳しく感じるが、地域との連携を図り実現させる」と強調した。今後は航空機産業関連に加え、農水産物の需要取り込みを加速させたい考え。フレーター（貨物専用機）の増便も働き掛ける。

同日、東京都で開かれた記者会見で明らかにした。15年上期の国際貨物取扱量は8万1千トンで、前年同期比で3千トン減少。旅客便の運休や機材の小型化による貨物スペースの減少、中国の景気悪化などが響いた。ただ、連結業績は売上高273億円（前年同期比14・3%増）、経常利益35億6千万円（41・3%増）と増収増益。貨物便を含む国際線発着回数は1万7千回で、4・8%増えた。

「地域との連携を図り目標達成を目指す」と各務副社長

貨物取扱量の通期目標は17万トンに据え置いた。各務氏は「目標の達成は厳しく感じる」としたものの、「自治体と連携を図りながら、農水産物の輸送事例をつくっていく」と意欲をみせた。

また、10月には、米ボーイング社の主力機「787型機」の部品輸送を円滑にするため、新たな部品保管庫の起工式を実施。787型機の生産体制拡大に併せて、航空機産業関連の取り扱い増加を目指す。

このほか、機材の大型化やフレーター便の増便も働き掛ける。各務氏は「全く手応えが無いわけではない。タイミングの問題だ」と指摘した。

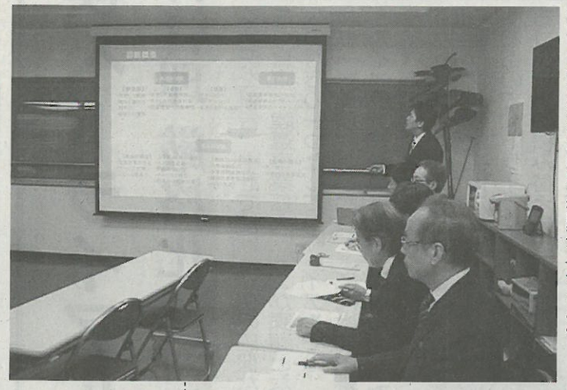
（土屋太朗）

東亜物流を経営診断

― 法政大経営大学院 ―

受講生8人が改善提言

法政大学経営大学院のビジネススクールで、東亜物流（森本勝也社長、東京都江戸川区）を対象とした経営診断実習の発表会が17日、行われた。MBA（経営学修士）特別プログラム（中小企業診断士養成課程）の受講生8人が、森本社長らへのヒアリングを踏まえた経営診断報告書を基に経営改善項目を指摘。メーカーやIT（情報技術）企業、証券会社などの出身者が、独自の視点から多角的に提言した。



受講生が経営戦略策定に関してプレゼンテーション

東亜物流と取引しているロジコンシェル（中央区）の近藤正幸社長が、恩師である並木雄二教授の要請を受けて森本氏に協力を依頼。非物流関係者の意見を耳にできる好機と捉え、森本氏は「生きた教材」を提供することに快諾したという。

実習は、中小企業へ指導、支援、アドバイスできるコンサルティングスキルの習得が目的。受講生は①人事②組織③将来構想――の観点から、経営戦略策定に関するプレゼンテーションを1人ずつ行った後、森本氏に各種提言を盛り込んだ報告書を手渡した。

発表会の終了後、並木氏は「とても良い教育効果があった。経営を学ぶには実際に企業へ足を運び、トップの生の声に接することが重要。10年間で200社を取り上げたが、物流企業は今回が初めて。いろいろと気付きがあり、物流を更に知って欲しいと思った。これを機に、毎年1社は物流企業を入れたい」とコメント。

森本氏は「OJT（職場内訓練）の担当者を配置することや、キャリアパスプランをより明確化すべきといった提言をもらった。以前から社内で検討していた事項も含まれていたが、非常に参考になった」と感想を述べた。

（沢田顕嗣）

ハマキョウ 3PL事業拡大

5センターで130億円投資

ハマキョウレックスは主力の3PL（サードパーティー・ロジスティクス）事業拡大のため、物流センターの拡充・強化に取り組む。12月末には三重センター（三重県伊賀市）が竣工、2016年1月から稼働するのに続き、3月までには計5カ所の物流センターを順次開設。16年3月期の設備投資は総額130億円規模になる見通しだ。17日、東京都で開催された15年4～9月期の決算説明会で、山崎裕康専務は「3PL事業の収支改善効果が寄与し、通期の経常利益は前の期比2桁増となる82億円を確実に確保できる」と自信を示した。

（高木明）

新規案件、年間15件めざす

三重センターは医療・医薬品業界向けの施設で、延べ保管面積は7430平方㍍。一時保管、在庫管理、配送業務などを行う拠点施設としての役割を担う。また、来年2月から稼働予定の綾瀬センター（神奈川県綾瀬市）はアパレル業界向けの施設で、保管面積は2万940平方㍍に及ぶ。

また、ドラッグストア向け施設となる保管面積2万4500平方㍍の春日部センター（埼玉県春日部市）が2月にオープン。これに続き、ドラッグストア向けで保管面積8010平方㍍の相模原センター（相模原市緑区）も竣工し、本格稼働する。

同社の物流センター総数は全国82カ所（9月末時点、自社センター23、借用センター59カ所）で、総保管面積は88万8100平方㍍。現在3PL業務の受託が好調に伸びており、15年4～9月期では6社の業務が新たに始まった。「3PL業務の売上高は（中間期で）前年同期比6・6%増の227億9900万円、営業利益も業務の効率化などで15・9%増の26億7600万円を確保することができた」（山崎氏）

16年3月期の業績予想は連結売上高942億円（前期比2・5%増）、経常利益82億円（16・8%増）。うち3PL事業は売上高460億円（5・1%増）、営業利益54億円（15・6%増）、また、近物レックス（堀内悟社長、静岡県清水町）を中核会社とする運送事業では、売上高482億円（0・1%増）、営業利益27億円（31・4%増）を見込む。

山崎氏は「3PL事業、運送事業ともに業績の改善が進んでいる。昨年4月から始まった3カ年経営計画では、最終年度で売上高1070億円、経常利益100億円達成を目指すが、順調な滑り出しとなった。引き続き、3PL事業については年間15件の新規案件獲得を目標に事業拡大を加速させていきたい」と語った。

川合・日通会長が受賞

第1回物流人間大賞 地位向上むけ情報

日本物流記者会（大山高明会長）は16日、物流分野で高い功績を上げた個人を顕彰するため創設した「物流人間大賞」の第1回受賞者を、日本通運会長を務める川合正矩氏（72）に決定し、表彰した。

通運連盟会長として、物流業界の喫緊の課題であるモーダルシフトの推進役として大きな役割を果たしたほか、6月までの2年間、日本物流団体連合会長として、物流業界の地位向上に向け始めとする社

九運局／省エネフォーラム

地球温暖化テーマに

運輸分野の環境意

九州運輸局は17日、福岡市で「省エネ促進フォーラム2015 in 九州工業大学教授が「地球運輸～環境エ点から」をテた。

九運局の竹「トラック、ーの運輸分野識を持ち、温「エネルギーが求められる長

JIFFA■英語＆中国講座

成績優良者を表彰

伊藤会長が激励

国際フレイトフォワーダーズ協会（JIFFA、伊藤豊会長）は19日、実用英語通信文講座と初級・中上級中国語講座の成績優良者への修了証授与式を開いた。講座は4～10月にかけて行われ、5人が伊藤会長から修了証を受け取った。

実用英語講座では山田佑香（築港）、富岡正伍（日本通運）、長島洋志郎（三和フォワーデ氏、中国講良者に五木田トーコーポ中級で浅川目通運）がそれ

伊藤氏は一け、立派な成は大変なこと としてこれか立てて欲しい は語学力が必